思考大学　インフォメーション（作成　ムラーラミュージックオフィス）

グローバル化がいっそう加速していく中で、今「人・事・モノ」とのかかわり方がとても重要視されています。

（出だしの音の高さに気を付けます.女性の場合は特に初めの音の出方で全体のトーンがうごかせないので注意です。）「ひと・こと・もの」はその言葉によってニュアンスを変える。

　他の大学では体感できない、現地の温度感やまた人と人との距離感が、ダイレクトに学べる空間として、大変支持されています。

　「距離感が」の後、句読点がありますがここで区切っても流してもその方のニュアンスに従います。「ダイレクト」は重要単語なのでピックアップ。「支持されています」の上げ下げはそのかたの自由。前後との関連を大事にして。

学業という垣根を越えて本格的に職業体験ができ、また、今まで各エリア担当講師が話し合いを重ねて培った「生徒それぞれに臨場感ある体験を提供できるノウハウ」。

これらを、惜しみなく提供できるのが、この「思考大学」です。

「ノウハウ」。は落とし込みます。「そのノウハウとはなんだ？」という疑問形がなげかけられる空間を与える。「これらを～」からの一文はこの文章のすべてのまとめとも取れるので大学名をきちんとピックアップします。

「思考大学」の新しい取り組みは、大学が経営する新しい「学習塾」の運営です。

現在多くの中学校や高等学校にて、この「思考大学指定学習塾」の需要が高まっています。

　「高まっています」は上げて下げないほうが購買意欲が上がるイメージです。そして、「無声化」は常に意識して行っていきます。無声化ができないと全体に文全体がもさっとします。

将来的に思考大学への入学を希望する生徒さんへは事前にキャンパスライフを体験できる「サテライトマスタークラス」へのご案内も可能です。

　ときどき接続詞にアクセントがつく方がいらっしゃいますが注意が必要です。

また留学に関するシンポジウムや、交換留学生との交流会イベント、学内での異文化交流など、学校側が積極的に企画をしております。

。

「大学とは、学問を通じて、自分自身の人となりを形成していく場である。」

この理念のもと、「思考大学」はコミュニケーションスキルアップを育てる場にもっともっと成長していくことをお約束します。

　「大学とは～」からの文章は完全に今までの流れから変えていきます。

場である～ここはテンポをゆったりにして、その文章自体が格言的に扱われるようにしていく。

「お約束します」はきちんときれいに文末を落とし込みます。